

# 巻 頭 言

多根総合病院 院長 丹羽 英 記

昨年3月1日に多根総合病院が新病院に移転し、その直後に東日本大震災が発生、関西には被害が少なかったものの、日本全体が抱えている経済危機を急速に加速させたという点では、ボディブローのようにじわじわと医療界全体や当院にも今後影響をおよぼして来るかもしれません。

皆様のおかげで新病院は経営的にも安定し、さらなる発展を目指そうと前向きに考えておりますが、そのひとつとして、この度多根総合病院医学雑誌を新発刊することになりました。

私が多根総合病院に赴任した頃は病院自体に学会発表や医学雑誌への投稿などはほとんど無い状況で、当院ですばらしいことを行なっている、また非常にめずらしい症例があっても、それを対外的に発表して行くという習慣がありませんでした。やはり内部だけでレベルが高いと思っても、それが対外的に認められなければ、その価値は評価されず自己満足に終わってしまいます。最近ではさすがに数多くの学会発表や講演、論文発表が見られるようになってきましたが、まだそういうことに慣れていない部署やスタッフも数多いと思います。多根総合病院医学雑誌ができたことで、学会発表を論文にまとめる習慣をより多くのスタッフが持てるように成っていただきたいと思います。もちろん各論文は査読者を付け厳正にチェックはしておりますので、論文発表に慣れていない方はひとつの目標としていただければ幸いです。

最後に多根総合病院医学雑誌編集委員会を中心となって引っ張っていただいた渡瀬先生および編集委員会各委員の皆様へ感謝いたします。どうもありがとうございました。

